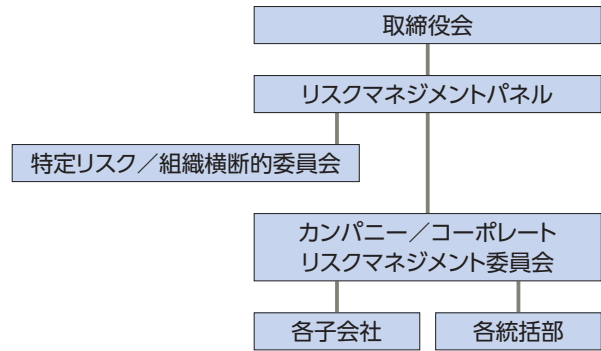


リスクマネジメントの基本方針

荏原グループ会社の健全な存続発展を阻むあらゆるリスクを最小化するために、従来型の「発現した個別リスクへの対応」中心の活動から「リスクを予見し未然に防止すること」に重点を置いたリスクマネジメントに転換を図っています。そのために、荏原グループの倫理体系の基本である荏原らしさを踏まえた従業員一人ひとりの意識改革とその実践こそ事業の円滑な基盤となるものと考え、重点的に取り組んでいきます。

リスクマネジメント体制

荏原グループリスク管理体制図



機関	目的	構成	開催頻度
リスクマネジメントパネル	荏原グループのリスクマネジメント活動状況の統括、総合的な審議、改善指導・支援。	執行役及び議長(代表執行役社長)が必要と認めた者。	定例会:年4回 その他:随時案件対応
特定リスク/ 組織横断的委員会	安全保障貿易管理、環境管理、反社会的勢力対策に加え、建設業法や下請法などに対するコンプライアンス違反が生じないための施策実施など、特定のリスク課題への対応。	カンパニープレジデントなどが選出し、代表執行役社長が任命した者。	各委員会運用規程に従い定例会開催。 その他、随時案件対応
カンパニー/コーポレート リスクマネジメント委員会	カンパニー/コーポレート及びその下に置かれた子会社におけるリスクマネジメント活動状況の統括、総合的な審議、改善指導・支援。	委員長(コーポレート担当執行役、あるいはカンパニープレジデント)と委員長が任命した者。	随時案件対応

2019年にありたい姿の実現を支えるリスクマネジメント

荏原グループ一体のリスクマネジメントの推進

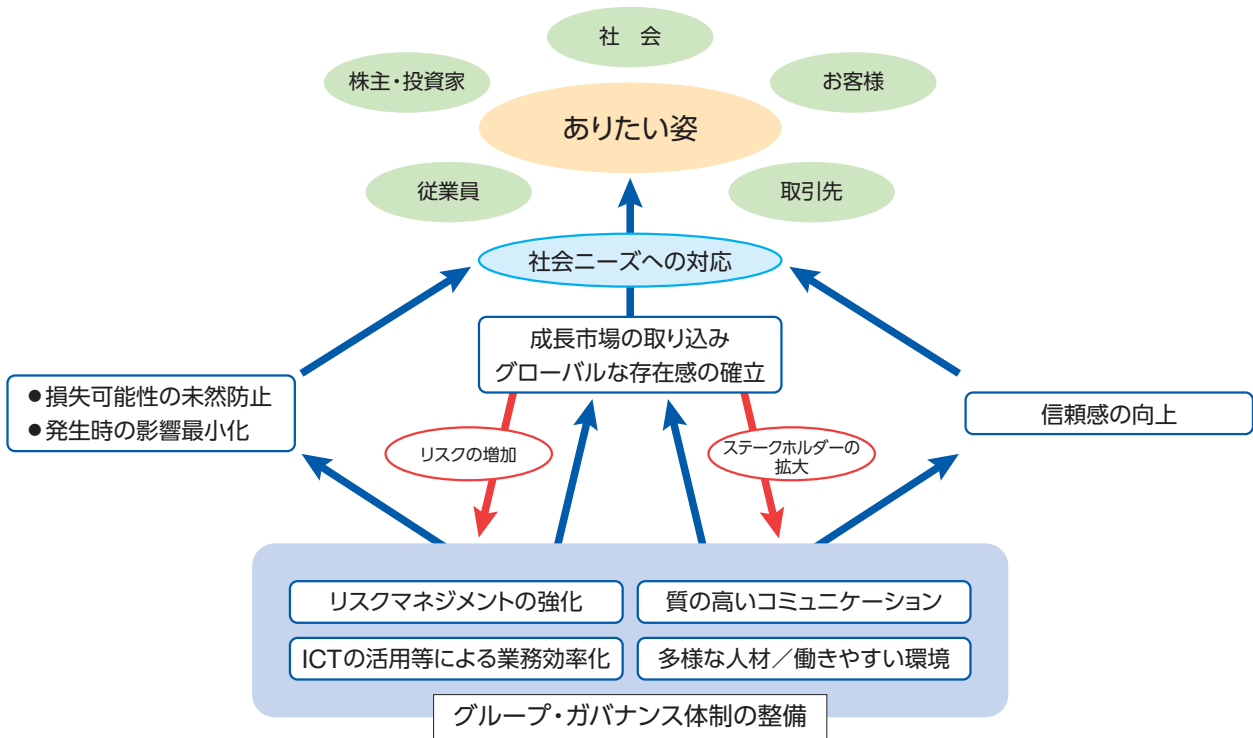
CSRの実践活動の一つとしてリスクマネジメントがありますが、当社は、「当社及び子会社の損失の危険の管理に関する体制の整備」(内部統制基本方針)を方針に掲げリスクマネジメントに取り組んでいます。そこで、グループ各社内での更なる体制整備の第一歩として、2014年度は海外のグループ会社に対するコンプライアンス、人権、環境、安全などの観点でのリスク調査を行い、次にその結果に基づき、荏原グループリスクマネジメント・ガイドラインを策定しました。このガイドラインで定めたリスク管理レベルの確実な達成に向けて、KPIを定め中期経営計画(E-Plan 2016)の中で取り組みを開始しています。

また、2015年度に改正される会社法及び同施行規則では、グループ会社に対するガバナンスの強化が求められます。国内外関係会社と一体となった荏原グループリスクマネジメントを推進して行きます。



企業リスク管理統括部長
植木 庸幸

リスクマネジメントの強化とありたい姿の実現の考え方



2019年度にありたい姿・2016年度目標

2019年度にありたい姿	テーマ	2016年度の到達目標
海外グループ会社を含めた荏原グループの全従業員が荏原らしさ及び行動基準を共通のアイデンティティと価値観として共有する。 リスクマネジメントガイドラインをすべてのグループ会社で運用し、リスク管理目標に基づいてリスクを予見し未然に防止する体制を構築する。	企業倫理の理解と浸透	創業の精神、企業理念、CSR方針からなる荏原らしさ及び行動基準を周知し、海外子会社を含むすべてのグループ会社の従業員が共通の企業倫理を理解する。
	リスクマネジメントシステム整備	環境保全、公正取引、労働安全、安全保障貿易管理などの各分野別のリスクマネジメントガイドラインを海外子会社に展開し、リスクを予見し未然に防止する。
	BCMSの構築	大規模災害発生時に、いち早く社員及びその家族の安全を確保し、速やかに事業継続活動及び事業復旧活動を実施するために、訓練等を通じて実効性のある事業継続システムを構築する。
	情報セキュリティの構築	重要情報のレベル分けとそれに応じた管理を進め、海外拠点や関連会社での情報管理状況把握、グローバル環境に適したドキュメント管理システムの構築を推進する。併せてマルウェア対策を継続する。

2014年度の目標・成果

テーマ	目標	成果	ありたい姿との関係
企業倫理の理解と浸透	国内外グループ会社に荏原グループの企業倫理を浸透させる。	中国、アジア6つの国と地域で1,150名が「荏原らしさ研修」を受講。80%超が「よく理解できた」と回答。日本では、15社、8,432名が「荏原らしさ」をCSR研修により受講した。	荏原グループの一員としての誇りを醸成する。 CSR方針、行動基準の理解と実践によりリスクの回避につなげる。
リスクマネジメントシステムの構築推進	海外グループ会社のリスク調査を行う。	環境管理、労働安全、人権尊重等に関して15か国27社の実態を調査し、リスクマネジメント項目と管理レベルを決定した。	グローバル展開の基盤の整備として荏原グループリスクマネジメントガイドラインを策定した。
BCMS	緊急事態における基礎対応力を向上させる。	各地の本部機能を強化した。 危険物管理体制を強化した。	被災時の電源確保、通信機能確保等による緊急時対応能力が向上した。 危険物等による二次災害発生防止に寄与した。
内部統制	グループ全体の内部統制の品質を向上させる。	内部統制の自己点検ガイドラインを作成し、グループ会社に展開した。	グループ会社が内部統制の整備・運用状況を自己点検し、改善に取り組むことによりグループ全体の内部統制の品質が向上した。
情報セキュリティ	国内グループ会社における情報セキュリティレベルを維持、向上させる。	「情報セキュリティガイド」として情報セキュリティ資料を整理統合し、eラーニングによる教育・啓発を国内荏原グループへ実施した。	国内グループ会社の従業員に対して情報セキュリティを再認識する機会を創出し、情報の取り扱いに対する意識が向上した。

■ 荏原らしさ研修会



P.T.Ebara Indonesia



台湾荏原電産股份有限公司

2014年度トピックス

荏原は、2015年2月27日付で、日本政策投資銀行(以下、DBJ)が実施する「DBJ BCM格付」の最高ランクを取得しました。DBJ BCM格付は、DBJが開発した独自のシステムにより防災及び事業継続対策への取り組みが優れた企業を評価するもので、その格付に応じ設定される条件で融資が受けられる制度です。当社は、「有事において産業・社会インフラの機能継続及び早期復旧に貢献すべく、『人命第一』を基本方針として高い水準で事業継続マネジメントシステムを展開している」と評価され、最高ランクの格付を取得することができました。



【主な評価内容】

(防災対策への取り組み)

- ▶ 全社的な防災訓練、eラーニングの実施や冊子の配布、安否確認体制の確立

(事業継続対策への取り組み)

- ▶ 電力の冗長性確保*1や重要情報資産のバックアップ等
- ▶ 同時被災リスクのない拠点での代替機能や委託生産体制の確保

2015年度の課題と目標

テーマ	課題	2015年度目標	2015年度活動計画
企業倫理の理解と浸透	2014年度に訪問研修を終えていない海外グループ会社に対する研修を実施する。	同左	海外グループ会社16社に対して、企業倫理研修を実施する。
リスクマネジメントシステムの構築推進	海外子会社におけるリスクマネジメントを円滑に導入する。	荏原グループリスクマネジメントガイドラインに対する、海外子会社別アクションプランを作成し、対応に着手する。	海外子会社に対して荏原グループリスクマネジメントガイドラインを展開し、アクションプラン作成を支援する。
BCMS	緊急時対策の確実性を向上させる。	PDCAサイクルを通じたBCMSの適切性・実効性を向上させる。	日本における全社及び各地の訓練実施と対策の見直し(改善)を行う。
内部統制	グループガバナンス/コーポレートガバナンスの質の改善と実効性を向上させる。	グループ内部統制の改善活動の継続実施及びグループ管理体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 親会社への報告体制の改善によるグループ管理体制の充実。 ● 内部統制の自己点検ガイドラインの継続的取り組みによる経営管理品質の改善を図る。
情報セキュリティ	国内外グループ会社のITガバナンスを強化する。	E-Plan2016の施策に適合するグローバル体制構築の計画策定・実施及びグループ各社の規程類の整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外の主要グループ会社に対してIT自己点検ガイドラインを展開し、情報セキュリティ強化に向けた支援。 ● 国内主要グループ会社以外に対して規定類の整備・推進支援。

*1:【電力の冗長性確保】災害発生後でも機能を維持し続けられるように、バックアップ電源を確保しておくこと。